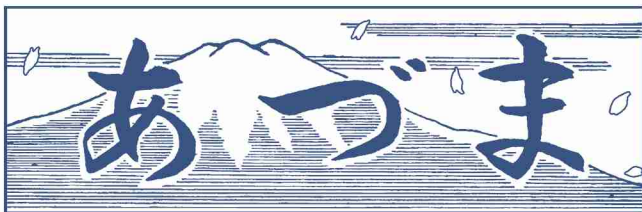


方 面	東方ZEPPIN! カップ	(1面)
1 師 団	第2次師団演習	(3面)
12 旅 団	鳥インフルエンザ災害派遣	(4面)
1 施設団	秋季東富士演習場定期整備	(5面)
関東補処	陸曹候補生選抜第2次試験	(6面)



令和6年12月25日 第1079号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

最優秀献立



第1位 板妻駐屯地 板妻にんにく醤油かつ丼

東方ZEPPIN! カップ2024

優秀献立



第2位 朝霞駐屯地 最強ニンニクホルモン丼

上位5献立 駐屯地食堂で年度内に提供

板妻駐屯地が最優秀献立

優良献立



第3位 三宿駐屯地
あの有名店「格之進ハンバーグ」とのコラボ丼

敢闘賞



第4位 北富士駐屯地
駐屯地No1丼「ねぎ塩豚丼」

敢闘賞



第5位 高田駐屯地
カツカレーラーメン丼

方面隊は11月11日から21日までの間、令和6年度東方ZEPPIN!カップの隊員投票を実施し、板妻、朝霞、三宿、北富士、高田駐屯地が上位5位を占める結果となった。



献立紹介動画



献立レシピ

最優秀献立に選ばれた板妻にんにく醤油かつ丼は、ご飯の上に肉厚サクサクのトンかつ、せん切りキャベツをたっぷりのせ、にんにく香る醤油たれをかけ、かつお節をトッピングしたものであり、板妻駐屯地隊員から絶大な支持を得ている板妻駐屯地ナンバーワン献立である。

今回は「隊員に喜ばれる丼ぶり」をテーマに行われ、方面隊33個駐屯地に市ヶ谷駐屯地を加えた34個駐屯地の約4万2千人の隊員が投票した。全34個献立の紹介動画を方面隊アカウントのYouTubeで視聴できるほか、レシピは方面隊のホームページで公開している。

最優秀献立に選ばれた板妻にんにく醤油かつ丼は、ご飯の上に肉厚サクサクのトンかつ、せん切りキャベツをたっぷりのせ、にんにく香る醤油たれをかけ、かつお節をトッピングしたものであり、板妻駐屯地隊員から絶大な支持を得ている板妻駐屯地ナンバーワン献立である。

方面隊は11月11日から21日までの間、令和6年度東方ZEPPIN!カップの隊員投票を実施し、板妻、朝霞、三宿、北富士、高田駐屯地が上位5位を占める結果となった。

オピニオンリーダー・東桜会

各種研修で理解を深化



装備品展示(東千歳駐屯地)



弾着地域の研修(東富士演習場)

東桜会北部方面区研修

方面隊は10月2日から4日までの間、東桜会北部方面区研修を実施した。

本研修は自衛隊に対する理解の深化を図り、今後の活動の資とすることを目的として計画されたもので、東桜会会員17人が参加した。研修初日は旭川駐屯地における第2師団長との懇談、概況説明受けのほか、北鎮記念館の研修、旧旭川飛行場見学等を実施した。

2日目は航空自衛隊千歳基地を訪れ、司令表敬、概況説明受け、装備品(F-15)展示、管制塔・政府専用機見学を行い、最終日は東千歳駐屯地において第7師団長表敬、概況説明受け、装備品(90式戦車、装甲戦闘車、偵察警戒車等)展示・90式戦車体験試乗・史料館見学・体験喫食を行い、充実した研修となった。

受け入れ部隊等の懇切丁寧な対応、献身的な支援により、道央及び道北に所在する陸上自衛隊の任務及び現状について理解を深めることができた。

参加者からは「新千歳空港における管制の全てを空自千歳基地が実施していることを初めて知った。領空侵犯へのスクランブル対処、政府専用機の運航や整備等、千歳基地の隊員の担う役割の多さに頭が下がる」「北海道でも隊員の確保が厳しいとのこと、自衛官の処遇改善を含め、自衛官が言えないことを積極的

富士学校近迫射撃研修

方面隊は10月9日・10日の両日、富士学校が計画する近迫射撃研修に東桜会会員26人(9日)、オピニオンリーダー20人(10日)を案内した。

大型車両により弾着地域に移動し、事前教育の後、射弾下掩蔽部内において、防弾ガラス越しに約200m先に弾着するFH-70による射撃の景況を、射撃終了後には弾着地域において、着弾した砲弾の威力を研修した。

「破砕音や弾着地の窪地の大きさから、特科の射撃の威力を肌で感じる事ができた」「事前教育を受けてからの射撃研修だったので、非常に分かり易かった」

「目標としている限定された狭いエリアに、正確に弾着しているところを確認し、陸上自衛隊の射撃の精度の高さを実感した」との感想があった。

近迫射撃研修、体験喫食、富士学校資料館見学等を通じ、オピニオンリーダー・東桜会の研修参加者に対し、自衛隊に対する理解の深化を図ることができた。

観閲式成功のその陰で 献立作成・調理班のおもてなし



各方面隊にゆかりのある献立



調理に携わった技官等を紹介する総監

最終的な献立を決

11月9日に行われた
防衛省・自衛隊70周年
記念観閲式が大きな成果

を収め終了することが
できたのは、多くの隊員等
がそれぞれの役割を果た

食における献立作成・調
理班のこだわりを紹介す

また料理を並べるラン
チョンマットへもこだわ

ランチョンマットは陸
上自衛隊の制服をイメー

乗戦糧食の体験喫食
常設の装備品（偵察用バ

は東部方面航空隊から支
援を受けた多用途ヘリコ

また偵察用バイク装備
品展示では迷彩服を着用

た。今後も陸上自
衛隊広報センター



ブルーインパルス事前整備の状況を撮影する学生



座談会形式で行われた
業務説明及び撮影技術講座

切りの口や柔軟な発想で、
より多くの国民に自衛隊
の魅力を発信するととも

切りの口や柔軟な発想で、
より多くの国民に自衛隊
の魅力を発信するととも

着用品とVR体験、さらに
ヒヨコ隊員広報センター

乗せたヘリコプターは大
空へと飛び立ち、搭乗者

はひと時の空中散歩を楽
しんだ。また航空機見学

が搭乗した。
戦糧糧食の体験喫食加

着しバイクに乗車してい
る景色を体験できること

採用広報の新規企画 写真部学生が自衛隊を激写

総監部は11月2日、
航空自衛隊入間基地にお
いて学生写真研究会を実

しかし格納庫内のブルー
インパルスや地上展示機

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

参加者からは「自衛隊
に関心はあったが体力が

韓国国防大学 表敬受け 相互信頼の強化



記念品の交換



懇談



概況説明

本年6月1日に行われた
日韓防衛相会談について
触れ「日韓米安全保障

総監は9月26日、朝
霞駐屯地において韓国国
防大学教授キム・ジュ

韓国国防大学安保課程
は韓国における官・民・

る理解を増進させ、国家
政策の策定及び管理能力

訪日においては東部方面
総監部のほか、防衛大学

本年6月1日に行われた
日韓防衛相会談について
触れ「日韓米安全保障



大空へと飛び立つUH-1J



戦闘糧食を加熱する体験者



ヒヨコ隊員との記念撮影

は毎月1回を基準
に各種イベントを
計画中であり、案

1 普連が中・長距離種目を独占 全自陸上競技会に歴史を刻む



9月26日に自衛隊体育学校で第28回全自衛隊陸上競技会が開催され、師団から1普連、32普連、34普連及び第1師団司令部付隊の隊員が参加した。女子3000mでは32普連の原土長がトラック最後の1周までトップ争いを繰り広げ、僅差での2位入賞となった。

男子3000mでは1普連から中光士長が参加し、大会新記録を叩き出して優勝したのを皮切りに、男子5000mでは1普連の古川1士が終始レースを先頭で支配し、2位に22秒以上の差をつけて優勝、さらに男子10000mでは1普連の日野原土長が参加し、序盤は先頭集団でレースを支配し、後半で一気にスパートをかけた2位に約18秒の差をつけて優勝した。これにより、1普連は中・長距離種目において全種目優勝という大会初の快挙を達成した。

日野原土長は「先に3000、5000mで連勝したのが自信になった」と話すが、今後の記念撮影では夏の練習の成果なのか真っ黒に焼けた肌に輝く瞳と白い歯が印象的であった。結果は以下のとおり。

- ▼女子3000m
第2位 原土長
(32普連・写真⑤)
- ▼男子3000m
第1位 中光士長
(1普連・写真①中)
- ▼男子5000m
第1位 古川1士
(1普連・写真①左)
- ▼男子10000m
第1位 日野原土長
(1普連・写真①右)



写景図の作成を行う隊員



連携して射撃の観測を行う隊員

また射撃の観測では、弾着現示棒を活用して射撃の観測について演練し、富士学校砲迫観測シミュレータで練度を点検した。訓練最終日には120mm重迫撃の能力向上を図っていく。



周囲を警戒しつつ突入態勢をとる隊員(32普連)



陣地防御想定における連隊指揮所の構築(1施大)



後の練成の資を得て終了した。本訓練に参加した隊員からは「実際の建物を使用することでよりリアルな訓練が実施できた。特にドアを破壊して突入する際に、それぞれのドアの形状に応じた破壊方法を把握することができ、今後の訓練に生かせる訓練ができた」と話していた。また本訓練には新隊員教育を修了し、部隊配属間もない新隊員が多く参加しており「不眠不休で体力の限界まで追い込まれながらも苦しかったが、先輩達のサポートがあり訓練を最後まで乗り越えることができた。自衛官として自信になった」との声が多く聞かれた。

第1師団

信頼される首都防衛の部隊へ

リアルな想定でミシシヨンリハ

師団は9月24日から29日までの間、各部隊に訓練基盤(東・北富士演習場、朝霞訓練場、部外施設等)を付与し、第2次師団演習を実施した。各部隊は各々が計画した想定に基づき、首都機能の維持に必要な作戦遂行能力の練度向上を図った。

本訓練における主要演練項目は「ゲリラ・コマンドウ等への対処能力向上に係る訓練」「本格的陸上作戦に係る部隊訓練」の2項目で行われた。ゲリラ・コマンドウ等への対処に係る訓練では、第1普通科連隊、第32普通科連隊及び第34普通科連隊により、建物内に潜伏する敵の索敵・撃滅等

を実施した。本格的陸上作戦に係る部隊訓練では、各部隊の任務、特性に応じた訓練を実施し、その練度向上を図った。各部隊は本訓練を通じて、師団の重要任務である首都機能維持に必要な練度向上を図るとともに、更なる精強化に向けた成果及び今

追悼の誠を捧ぐ

千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭



陸・海・空自衛隊合同部隊による鎮魂の捧げ銃

師団は10月18日に行われた令和6年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭において、第1普通科連隊を基幹とした陸・海・空自衛隊合同による部隊参列及び部隊礼拝を実施した。慰霊祭はご遺族をはじめ常陸宮妃華子殿下をお迎えして、政府高官、各国駐日大使・駐在武官のほか統合幕僚長、陸・海・空幕僚長等の多数の関係者が参列し、厳粛に執り行われた。陸・海・空自衛隊合同部隊の30人の隊員は、航空自衛隊音楽隊による「国の鎮めの演奏の中、先の大戦でなくなられ、現在の平和の礎となられた戦没者に対して、鎮魂の捧げ銃を行い、粛々とその責務を果たした。参列した隊員からは「先の大戦で亡くなられた全ての戦没者への追悼の誠を不ために臨んだ」「今の平和を築かれた感謝の気持ちを伝える想いをもって捧げ銃を行った」など各々が哀悼の意を持って臨んだことがうかがえる言葉が聞かれた。

砲迫射撃観測者の練度向上を図る

第2回師団観測者集合訓練

師団は9月29日から10月3日までの間、北富士演習場及び富士駐屯地において第2回観測者集合訓練を実施した。本訓練は砲迫射撃の観測者として必要な知識及び技能を習得させることを目的に、観測基礎(自己位置・目標位置の決定)及び射撃の観測を主要演練項目に行われた。

観測基礎は北富士演習場及び富士駐屯地測角訓練場において、地形地物を活用した自己位置及び目標位置の決定について演練するとともに、弾着地踏査により地形研究を行い、観測者側の目線と砲手側の目線の相違について習熟させ、写景図の作成において自己位置及び目標位置の決定に係る練度を点検した。

また射撃の観測では、弾着現示棒を活用して射撃の観測について演練し、富士学校砲迫観測シミュレータで練度を点検した。訓練最終日には120mm重迫

撃砲による実弾射撃を観測し、射撃の観測に係る練度の向上を図るとともに、観測者の練度を確認した。現地指導において師団長からは「戦場を管理する上で砲迫射撃は、重要である。そのため火力誘導をする観測者は師団が戦いやすい戦場を作るために重要な役割を担う。今後も弛まぬ訓練を続けてほしい」との激励を受けた。参加隊員からは「反復演練と実弾射撃の観測により、正確な目標位置の決定と迅速な射撃の判定・修正に係る識能・技能を向上することができた。今後は部隊で普及して訓練にも活かしていきたい」と意欲的な声が多く聞かれた。

師団は今後も師団の任務遂行に直結する砲迫射撃の練度向上のため、観測者の能力向上を図っていく。

第12旅団

新潟県胎内市における

鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣

第30普通科連隊及び第12化学防護隊は11月6日から8日までの間、新潟県胎内市で発生した鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣活動を行った。5日の朝、胎内市に所在する養鶏場において鳥インフルエンザの疑いが発生した。6日、検査の結果、鳥インフルエンザ陽性が確定。第30普通科連隊長は新潟県知事から鶏の殺処分等の支援に係る災害派遣要請を、同日午前8時に受理した。30普通連は災害派遣活動開始にあたり、5日に県庁へ連絡員を派遣し情報を収集するとともに、6



24時間態勢で行われた活動



現地指導する連隊長（左から2番目）



活動後の解除ミーティング

日早朝、養鶏場へ部隊を派遣して活動を開始した。活動は隊員約180人が12化防の防疫指導の下、ローテーションにより24時間態勢で行い、殺処分となる約35万羽のうち、鳥インフルエンザ発生鶏舎及び隣接鶏舎の約14万羽を担当した。活動は3日間に渡って行われたが、じ後の防疫処置は自治体のみで可能となったことから、8日午後9時、県知事より災害派遣撤収要請を受け、活動を終了した。なお活動期間中は、メソナルヘルスケア対策の一環として「解除ミーティング」を行った。現場から駐屯地へ帰隊後も、活動を通して体感したことや感情を同じ現場で活動したグループごとで話し合い、心理的なストレスの緩和を図った。

防災関係機関との連携を強化

群馬・新潟・長野の各県で総合防災訓練

第2普通科連隊、第13普通科連隊及び第12ヘリ各県総合防災訓練に参加した。2普通連が12ヘリによる救



物資輸送訓練（群馬県）



避難誘導訓練（新潟県）



機外搭載訓練（長野県）

10月20日、新潟県総合防災訓練が南魚沼市大和中学校の校庭で行われ、2普通連が12ヘリによる救

援物資輸送支援を行い、ともに、孤立した被災住民の避難誘導を支援した。11月7日、長野県総合防災訓練が小諸市南城公園で実施され、13普通連が炊き出し訓練、被害状況調査による偵察訓練、土砂倒壊家屋からの救出救助訓練及び12ヘリによる電力会社大型発電車の機外搭載訓練を行った。

本訓練を通して各部隊は、訓練に参加した防災機関との連携強化を図るとともに、自衛隊に対する信頼感の醸成を図ることができた。

国民保護に関する対処能力向上

令和6年度長野県国民保護共同実動訓練

旅団は11月7日、消防庁、長野県及び飯田市が主催する令和6年度長野県国民保護共同実動訓練に参加し、関係機関との機能確認、連携強化等、国民保護に関する対処能力の向上を図った。

本訓練は飯田運動公園と飯田市文化会館で行われ、第12旅団司令部、第13普通科連隊及び第12化学防護隊が参加し、公園

内野球場で化学剤のようなものが散布されたという想定で開始された。まず現地合同調整所訓練として、人命救助に係る情報について自衛隊と県・市対策本部との報告・調整が行われた。

訓練はテレビや新聞等で取り上げられ、国民保護のための措置に対する国民への理解促進に寄与することができた。

12ヘリ

緊急時の水上操作能力を向上
霞ヶ浦で離着水・キャスティング飛行訓練



機内に流入した湖水を排水するCH-47

第12ヘリコプター隊は10月2日、霞ヶ浦離着水訓練場においてCH-47の離着水訓練を実施した。

本訓練では操縦士の不時着などの緊急時における水上操作能力及び水上バラング能力向上を図るとともに、水陸両用作戦時に実施するキャスティング（超低空飛行を行った。相馬原飛行場を離陸し霞ヶ浦離着

水訓練場に到着したCH-47は、ホバリングに移行して徐々に高度を下げ、霞ヶ浦の湖面に着水。着水した機体はゆっくりとした速度で湖面を水上滑走後、ローターの出力を上げ再び上空へ離水。機内からは滑走中に流入した湖水が滝のように排水され、ヘリコプターのダウンウオッシュとともに波紋が広がる湖面に降り注いだ。引き続き第2飛行隊飛行班長による、教育展示飛行（キャスティング飛行訓練）に移行し、霞ヶ浦の湖面を超低空で飛行して、飛行要領の普及を図った。なお本訓練間、第1飛行隊のUH-60が上空で統制機として、訓練空域及び水域の安全化を図った。

12ヘリは空中機動性を強化した旅団唯一の航空部隊として、いかなる状況においても任務等を完遂する能力を培うため、引き続き訓練にまい進していく。

哀悼の誠を捧ぐ

令和6年度各県自衛隊殉職隊員追悼式

10月から11月にかけて、旅団管内各県の駐屯地で令和6年度自衛隊殉職隊員追悼式が

県及び栃木県の自衛隊殉職隊員追悼式が相馬原駐屯地及び宇都宮駐屯地で、11月16日に新潟県殉職隊員追悼式が新発田駐屯地で、11月23日には長野県殉職隊員追悼式が松本駐

屯地で、厳かに執り行われた。それぞれの追悼式では群馬県35柱、栃木県53柱、新潟県17柱、長野県42柱の英霊に

対して、哀悼の誠を捧げた。



群馬県自衛隊殉職隊員追悼式



栃木県自衛隊殉職隊員追悼式



新潟県自衛隊殉職隊員追悼式



長野県自衛隊殉職隊員追悼式



汚染区域の除染作業訓練（12化防）



避難住民誘導及び警護訓練（13普連）

第1施設団

演習場整備任務を完遂

施設技術を集結

施設団は11月13日から22日までの間、東富士演習場において「令和6年度秋季東富士演習場定期整備」を担任・実施した。本整備においては、団隷下部隊の他、方面区内の各部隊を統制下におき、人員約1430人・車両等約800両による東富士演習場定期整備隊を編成した。整備に先立ち、

習場整備の目的及び重要性を理解し、所定の任務に邁進するよう指導した。

整備に当たり東富士演習場を3つの整備地区に区分し、北地区は第4施設群長、中地区は普通科教導連隊長、南地区は第5施設群長がそれぞれ地区整備隊長となり、事前

に基づき、部隊の持つ技術を集結した。この際、長期的な使用ニーズに応えるべく、各種民生品やICT器材（マシンガイダンス付油圧ショベル）を活用し効果的かつ効率的な整備に努めた。

19日には総監の現地視察を受け、現地において整備状況について報告するともに、総監から激励を受けた。じ後21日に整備隊長点検を実施し、所望の成果を得られたことを確認した。なお点検時には、各現場において機能性や品質の確認だけでなく、着意した事項や苦労話等の報告を実施させ、その労をねぎらい、もって令和6年度秋季東富士演習場定期整備の任務を完遂した。



マシンガイダンス付油圧ショベルを活用した機動路拡幅



浸食防止資材を活用した平塚道排水設備改修整備



歩行型ナイフ形式草刈り機を活用した除草作業

整備隊長褒賞受賞者		第307施設隊	
第1施設団本部付隊	渡部 3曹	小山	士長
第101施設器材隊	特殊器材中隊	石黒	1士
第301タンク	車両中隊	磯部	1士
第4施設群	重松	吉田	1士
第5施設群	村山	宮崎	1士

河野元統幕長による記念講演

～我が自衛官人生を振り返って～



現職隊員に懇切丁寧に講演をする第5代統合幕僚長 河野 克俊 氏

祝古河駐屯地創設70周年



河野氏の講演を熱心に聴講し質問をする第102施設直接支援大隊の隊員

古河駐屯地は11月6日に駐屯地創設70周年事業の一環として、第5代統合幕僚長の河野 克俊氏を講師に招き「我が自衛官人生を振り返って」をテーマに記念講演を実施した。本講演には駐屯地所在隊員300人以上が参加し、河野氏は40年以上にわたる自衛官時代の大きな転機や苦労されたこと、またリーダーシップ発揮に必要な心構えや不

測事態発生時の対処等、参加した駐屯地所屬隊員に分りやすいよう懇切丁寧に伝えていた。

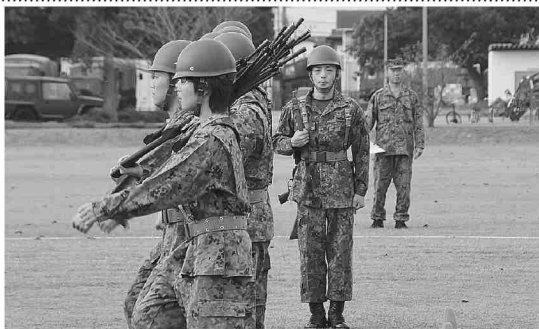
本講演を聴講した隊員からは「講演を聴講して、大いに識能及び服務意欲を向上することができた」「今回の講演は今後の自衛官人生に役立つ内容であり聴講でき非常に良かった」「このような講演を是非また実施してもらいたい」等の声が多数寄せられ、隊員の使命の自覚を促進することができた。

関東補給処

陸曹目指し2次試験

各部・各支処等から12人が受験

関東補給処は10月16日、霞ヶ浦駐屯地において、陸曹候補生選抜第2次試験を実施した。第1次試験は各部・各支処等から31人が受験し、成と自学研鑽に励んだ成果を大いに発揮した。面接では理想とする陸曹像や自分の目指すべき将来の姿を、自分の言葉で面接官に伝え、術科試験では緊張した面持ちを見せるも、停止間及び行進間における着眼を自ら



分隊員を整頓する受験者



着眼を示す受験者



基幹要員が集合訓練必要な技能の習得

関東補給処は9月30日から10月11日までの間、霞ヶ浦駐屯地において令和6年度第2次格闘基幹要員集合訓練を実施した。本訓練の目的は格闘訓練に係る各種技術、訓練実施要領、必要な技能等を習得させ、検定及び練度判定を実施し、部隊格闘指導官養成要員及び基幹要員の練度向上を図ることであり、各部・各支処、航空学校霞ヶ浦校、東部方面システム通信群、武器教導隊から指導部要員含む37人が参加した。

若年事務官が市ヶ谷研修勤務意欲の高揚を図る

関東補給処は10月15日、若年事務官等に対し部隊研修概要を説明し、今後のキャリアプラン形成を実施した。



東京地本副本部長による説示



概要説明を受ける事務官等

成の資とするとともに、市ヶ谷駐屯地施設研修等を通じて、中央機関勤務を目標とした勤務意欲の向上を図ることを目的として、各部・各支処等から令和5年及び6年に採用された事務官等20人が参加した。

午前には市ヶ谷駐屯地内の記念館及び施設研修、午後は隣接する東京地本の支援を受け、東京地本の概要及び施設をそれぞれ研修した。また地本研修の最後には副本部長から事務官等の心構えについて説示を受けた。

研修に参加した通信電子部の阿部事務官は「記念館研修では市ヶ谷の歴史や施設の工夫などを知ることができました。また地本研修で業務内容の説明があり、自分の業務内容との違いが分かったことで視野が広がるとも良かったです」と話してくれた。

訓練参加者は上級及び部隊指導官から基礎・応用技術及び戦術格闘の知識やコツを習得しようとして、真剣な眼差しで耳を傾け、反復演練し、今回の精神徳目である「探究心」を持って全員が必死に取り組んでいた。

訓練終了に実施した検定では一人の不合格者も出ることなく、特級9人、準特級9人と受験者18人全員がそれぞれ目標とした級に到達した。



霞ヶ浦駐屯地公式ホームページ
<https://www.mod.go.jp/gsdf/eae/eadep>

X(旧ツイッター)フォロワー募集中!!



陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式
@CampKasumigaura

後支隊

秋季演習場定期整備を支援
全力でサポートし任務達成に寄与

グレーダの故障整備



被支援部隊に対する燃料補給

本定期整備間、整備隊管理支援

後方支援隊は11月13日から22日までの間、東富士演習場で実施された令和6年度秋季東富士演習場定期整備に対し、整備支援隊を編成して、兵站支援（補給・整備及び燃料補給）を行った。また

東富士演習場機能の維持・向上及び長期安定に寄与するため、東富士整備隊に所要の人員装備を配属し、演習場機動路の維持補修作業に参加する等、第1施設団が担任する演習場定期整備の任務達成に貢献した。

第1施設団を基幹部隊とした12個部隊の兵站支援二一に即応するため、第102施設直接支援大隊を中心に後方支援隊下9個部隊約80人の隊員をもって整備支援隊を編成し、高可動率を維持した。

その他、第103補給大隊は燃料交付所を開設し、本整備間約2万8千リットルの燃料補給支援を実施して、演習場定期整備の任務達成に寄与した。

東部方面航空隊航空野整備隊は11月16日、立川駐屯地において創隊70周年記念行事を挙行了。行事にはOB会及び隊員家族を招待し、家族説明会、セレモニ、記念会食、装備品・訓練展示等

70周年を記念して記念撮影

深く感謝した。そして「我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し、『必成』をスローガンに挑戦し、更に団結し、その責務を全力で果たしていく」と

また航空隊長はビデオメッセージで祝辞を送り、「諸先輩から引き継いだ変わらぬ野整備魂をもって、安全に業務を遂行していることに敬意と感謝を表します」と述べ、駐屯地を代表して70周年を祝した。

その他、広報コーナーを設置し、写真展示、ビデオ上映、質問応答ブースなどで家族向けの部外広報を行った。また主要車両の説明や天幕を展開して野外での活動を説明するなどして、隊に対する理解の深化を図った。

CTS

新たな運用態勢へ
所属駐屯地でBCTCが可能に

指揮所訓練支援隊は8月31日から9月1日の



ホームステーション検証の準備

ビス（以下、「ICE」という）のホームステーション検証（ネットワークを利用して所属駐屯地から指揮所訓練に参加する形態）を実施した。現行のICEは令和5年度以降、陸自クロス系クラウドシステム（以下「クラウド」という）の一機能として、運用できるようになった。これにより訓練部隊はクラウドが接続できる環境があり、ICE機能への接続権限を有していれば、従来は朝霞駐屯地で実施していたBCTC訓練を実施した。

また指揮所訓練支援隊は10月20日から11月1日までの間、令和6年度陸上自衛隊演習（以下「06陸演」という）において、東方教訓・検証部として隊長以下で参加した。

06陸演の主要演練項目に基づく指揮幕僚活動及び作戦別・機能別訓練の教訓について、各部隊等から収集した資料を各機能別教訓として取りまとめ、教訓資料綴りを作成する等、方面隊の運用、教育訓練等の反映に寄与した。

隊は引き続き訓練部隊の二一に最大限に配慮しつつ訓練支援の質的向上を図り、強靱な東部方面隊の創造に最大限寄与していく。

航空野整備隊

OB家族と節日を祝う
創隊70周年記念行事

を行った。

決意を述べた。

また航空隊長はビデオ

メッセージで祝辞を送

り、「諸先輩から引き継い

だ変わらぬ野整備魂をも

って、安全に業務を遂行

していることに敬意と感

謝を表します」と述べ、

駐屯地を代表して70周年

を祝した。

訓練所感

第3陸曹教育隊
第1普通科教育中隊
3等陸曹 氏田 航輝



私は令和3年8月から第3陸曹教育隊第1普通科教育中隊で迫撃砲及び曹候補生に対する教育は、小部隊の指揮能力及び陸士等を指導できる自信と実践力を付与し、もって任務を遂行できるようにすることが重要です。

「防衛力の抜本的強化、同盟国・同志国との連携、人的基盤の強化などさまざまな課題がある中で強靱な陸上自衛隊の創造の実現に向けて一人の助教として何をすべきなのか？」自問自答しながら学生教育に臨む日々です。

また学生指導に際して心服的指導の追求と目的の明示・理解の確認に着意して教育しています。教育をすることの重要性、難しさ及び楽しさを経験させていたただけている陸曹教育隊での勤務に日々感謝を忘れず、「学ぶは真似る」に恥じぬ助教になれるよう「俺に続け 俺を見よ」の伝統精神を心に刻み、今後とも任務に邁進していきます。

衛生隊

予備自衛官の練度向上
招集訓練で戦力化を図る

担架搬送の訓練

衛生隊は10月28日から11月1日までの間、朝霞、三宿駐屯地及び入間基地において予備自衛官招集訓練を実施した。

本訓練では衛生科及び他職種（予備自衛官に対し、後送部隊隊員

として患者後送に必要な担架搬送、後送間救護、車両・航空機への患者の搭載・卸下等の戦力化を図った。

担架搬送では担架の取り扱いから搬送時の声の掛け方、4人一組での息の合わせ方を演練した。後送間救護では搬送中の患者に対するバイタル測定（脈拍、血圧、呼吸等）や患者への処置を繰り返して練成した。救急車

内における患者の観察時には、救急車隊で作成している患者観察のフローチャートを使用することにより、医療の資格を保有していない予備自衛官も適切な観察が行えている。その他にも移動中の救急車内では、走行音によって声が聞こえにくいことから、ホワイトボードを用いた意思疎通の図り方についても演練した。救急車及び航空機への患者の搭載・卸下要領では、実施手順及び衛生資材の教育を行った。それぞれ患者を搬送する際は、予備自衛官の練度向上に寄与するため、今後予備自衛官招集訓練の充実を図る努力をしていく。

ある！ある！自衛隊

byともえ



茨城地本

「あつまれ！はたらくくるま」で
自衛隊をアピール

自衛隊茨城地方協力本部龍ヶ崎地域事務所は9月23日あみプレミアム・アウトレットで開催された「あつまれ!はたらくくるま」に参加した。

車、偵察用バイク、VR体験コーナー、募集相談コーナーを開設し、去年を上回る来場者で賑わった。

特にVR体験コーナーは、イベント終了時間まで長い列ができるほど大盛況で、来場者はゴーグ

ルを着用し右を見たり左を見たりとブルーインパルスのパイロットになった気分を体験し、フースは盛り上がりを見せた。

龍ヶ崎地域事務所は今後も積極的に地域のイベントに参加し、広報活動を実施していく。

本土地岡静
スタジアム
サポート

東京地本

八丈島のイベントに参加
離島で広報活動

自衛隊東京地方協力本部大田出張所は9月22日、八丈島空港で開催された「空の日」イベント

に、航空自衛隊中部方面航空隊司令部と共同で参加し、広報活動を実施した。

本イベントは八丈島空港、八丈町及び航空会社等が主体となった実行委員会が主催し、航空

八丈町民が来場して大盛況のイベントとなった。

また東京地本長が視察に訪れ、東京都八丈支庁長、八丈町副町長、都立八丈高等学校校長等と面会し、島内の防災及び自衛官採用制度について意見交換を実施した。

大田出張所は今後も関係部隊と協力して離島における広報活動を積極的

に実施していく。



自衛隊静岡地方協力本部は10月20日、IAIスタジアム日本平(静岡市)で開催されたJ2リーグ清水エスパルス対モンテディオ山形戦において広報活動を行った。

静岡地本は第34普通科連隊、航空自衛隊静浜基地の隊員とともに広報ブースを開設、制服試着体験や背のう背負い体験などを通して楽しみながら自衛隊を知ってもらうと

パイ、軽装甲機動車を展示し、応援ユニフォームを着たサポーターが笑顔で写真を撮ったり、隊員に話しかけたりしていた。試合のハーフタイムには、静岡地本のマスコット

「ん」がエスパルスや企業等のキャラクターとともにピッチサイドに登場した。のぼり旗を掲げた自衛官と一緒に観客席前を歩き、サポーターの声に応えてポーズを決めるなど、自衛隊のイメージを覆す愛らしい動きで存在感をアピールした。

静岡地本は今後も地元のスपोर्टイベントで広報活動を行い、幅広い層に自衛隊の活動を知ってもらえるよう努めていく。



自衛隊千葉地方協力本部茂原地域事務所は10月7日、パリオリンピック柔道混合団体において銀メダルを獲得した自衛隊体育学校所属の新添2尉を国際武道大学へ派遣

し、同校柔道部員及び近隣の小中学生等約100人を対象に広報活動を行い、その中で柔道の技術指導を実施した。新添2段等の技のコツを丁寧に

は「試合前に行くルーティンは何ですか?」という質問に対して「ルーティンは作らないようにしている」といったスポーツ競技者ならではの質疑応答があり会場は大いに盛り上がった。

枋木地本

本部長による防衛白書説明 9市町と連携強化

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所は9市町に対し、本部長及び副本部長が実施する防衛白書説明に同行した。防衛白書説明は防衛省

日那珂川町・太田原市、
10月8日塩谷町・高根沢
町・那須烏山市・さくら
市、10月9日那須塩原
市・那須町の順で3日に
かけて行った。

神奈川県神奈川地方協力
自衛隊

本土地方
神奈川県
神奈川

高校生が
総合的な探

神奈川地本

高校生が自衛隊体験

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所は10月11日、地域の高校生を対象とした「総合的な探究の時間」の一環として、部

ら、国防及び災害救助における自衛隊の重要性を理解してもらうことを目的として行われたものである。

横浜出張所は今後もイベントを主催し、募集広報を通じた防衛基盤の強化に尽力していく。



群馬地本

学園祭への参加

自衛隊群馬
地方協力本部
前橋募集案内
所は10月19
日・20日の両
日、私立共愛
大学から合格者2人を輩
出した。今回初となる学
園祭への参加は、合格し
た学生から大学側に対す
る働きかけにより実現し
たものである。

型スクリーンを使用した
自衛隊広報動画の放映、
制服試着、偵察バイクの
展示などを学生と共同で
実施するとともに、自衛
官と学生の腕立て伏せ対

学園前橋国際
大学で開催さ
れた、シャロ
ン祭（学園
祭）に参加し
た。

地本計画の

学園祭に向けて、学生
主体の実行委員会とミ
ティンクを重ね、自衛隊
広報ブースは学生と共同
運営を行うこととし、内
容や使用資材などの細か
な調整を行うことによ

静岡地本

スタジアムに自衛官登場 サポーターにPR

ともに、オリジナル缶バッジやグッズが当たる抽選会を行い人気を集めた。

また第34普通科連隊は高機動車、偵察用オート

千葉地本

メダリストが広報活動 柔道の技術指導を実施

解説し、参加者に対し巡回指導するとともに、試合時に意識する組み手のコツを伝えていた。また参加者からの質疑応答で

最先任 上級曹長 「力と責任」

東部方面衛生隊
高橋 克彦 准陸尉



令和4年8月から、東部方面衛生隊第5代最先任上級曹長として勤務している高橋准尉です。生まれは宮城県仙台市で、福岡県、静岡県、東京都練馬区で幼少期、中学高

校時期を過ごしました。平成7年4月に武山へ入隊し、衛生科隊員として、第1普通科連隊、仙台病院、衛生学校、第5後方支援連隊衛生隊、第11後方支援連隊衛生隊、

東部方面衛生隊、第1施設大隊での勤務や入校を経て現在に至ります。東部方面衛生隊は、方面管内の衛生に関する全般支援を任務として、年

間約700件の教育訓練、救護等の各種支援や事態対処時における医療支援の実行性を向上するべく、野外を含めた医療技術訓練等を実施してい

ます。さて、皆さんはこの言葉をご存じでしょうか。「大いなる力には、大いなる責任を伴う」…ある

た。Q2・これまで最も思い出深い訓練(携わった事業)は何ですか?また、その訓練で何を学ばれたか?

Q3・普段行っている業務とその魅力は何ですか?

Q4・自身のモットーと毎日の任務において心掛けていることは何ですか?

Q5・休日は何をしていますか?

Q6・趣味以外ではまっ

という力を扱う組織であり、数多くの人員が所属する数の力を持つ組織です。その一員たる個人の振る舞いや行動としてどのようなものが相応しいか。そういった点をしっかりと考えてもらえるよう、機をみて伝えるようにしています。

これからの、それぞれの立場を踏まえ、「力と責任」を考えて行動できる隊員を育成するべく、自らも律し、伝えながら職務にまい進していきたいと思っています。

オピニオンリーダー活動4年目、幹事を務めています。両親の郷里・岩手県には多数の縁者が居り、東日本大震災の際には陸上自衛隊の皆さまに大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。着任以来、様々な研修への参加

「おれたちのやっている訓練が全部無駄になって、あいつ(F4)がただの飛行機として一生を終われれば最高さ」「抜かすの剣こそ平和の誇り」とキメるシーンがあり、これこそ自衛隊!と共感したのですが、あれから40数年を経て触れた、黙々と訓練に励み、高い練度を維持し、人間味溢れる自衛官の方々は、まさにその通りであります。

子供の頃、航空自衛隊が舞台の漫画「ファントム無頼」に夢中になりました。作中、抜群の操縦技術と射撃技術を持つ主人公が演習で米軍相手にひと暴れたあと「守り

の剣」の使い方を説き「おれたちのやっている訓練が全部無駄になっ

「勤儉日行」 第12後方支援隊 関根 志那 陸士長

今月のフェアレディーは、松本駐屯地に所在する第12後方支援隊第2整備中隊第2普通科直接支援小隊の関根士長です。

関根士長は埼玉県さいたま市出身の21歳で、趣味は音楽を聴くこと。スマホを使って好みの曲を見つけて楽しんでいきます。小学生でサッカー、中学生でハンドボールをやっていたので、体を動かすことが好きです。Q1・自衛隊に入隊したきっかけは?

新隊員教育の時の職種説明を聞いて、武器科は自衛隊の任務を支える重要な役割だと感じたからです。普段は整備工場です。車両の点検・整備を行っ

ています。隊員の命を乗せる車両なので、作業を正確・確実に実施するよう心掛けています。Q3・休日の過ごし方は?

Q4・座右の銘は?

Q5・今後の目標は?

Q6・趣味以外ではまっ

Q7・今後の自衛隊人生でチャレンジしたいことはありますか?

Q8・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q9・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q10・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q11・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

今月のフェアレディーは、松本駐屯地に所在する第12後方支援隊第2整備中隊第2普通科直接支援小隊の関根士長です。



入隊前は戦闘訓練や射撃など自衛隊の訓練に関心があったのですが、新隊員前期で班長をしていた方から、有線山に張り巡らせているという話を聞きました。その時、そんな仕事もあるんだと通信という職種に憧れ、通信科を希望しまし



Q1・現在の職種とその職種を希望した理由は何ですか?

Q2・これまで最も思い出深い訓練(携わった事業)は何ですか?また、その訓練で何を学ばれたか?

Q3・普段行っている業務とその魅力は何ですか?

Q4・自身のモットーと毎日の任務において心掛けていることは何ですか?

東方男児 「安全第一」 関東補給処 通信電子部 田村 詠俊 陸士長

今月の東方男児は令和5年に入隊した宮崎県宮崎市出身の20歳、関東補給処通信電子部の田村士長です。

Q1・現在の職種とその職種を希望した理由は何ですか?

Q2・これまで最も思い出深い訓練(携わった事業)は何ですか?また、その訓練で何を学ばれたか?

Q3・普段行っている業務とその魅力は何ですか?

Q4・自身のモットーと毎日の任務において心掛けていることは何ですか?

Q5・休日は何をしていますか?

Q6・趣味以外ではまっ

Q7・今後の自衛隊人生でチャレンジしたいことはありますか?

Q8・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q9・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q10・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q11・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q12・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q13・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q14・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q15・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q16・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

Q17・最後に「これだけは言っておきたい」ということがあれば

編集後記

「一切は本日だったので、あなたの部隊は要領なしというところでしょうか。」「えっ、いったい何のことですか?」「2週間も前にメールを送っていますけど、見ていないんですか?」このようなやり取りを聞いてどう感じますか?メールを送った本人は「各部隊の担当に送って、その上司・部下にもCCで送っているから、担当に伝わるでしょう」という。確かにそうかもしれないが、正しいことを言う前に謝るべきかと思えます。まず謝って信頼関係を築かないと正論を言われても納得できないでしょう。「リスクを巡って社会の対立が続くのは、信頼が損なわれていることが根底にある」と大学の教授が指摘されていた。また信頼できない組織が行うことに、高いリスクを感じることは国内外の研究で確かめられているそうです。では、いかに信頼を得るかとの調査では、豊富な知識を持った「能力」、一生懸命で熱心といった「動機づけ」、気持ちを共有しているといった「価値共有」が重要です。ただ信頼への道は複雑で、「高い能力でまじめに仕事をすれば分かってもらえる」というのはある意味、傲慢です。思いを共有し、安全確保に努めている姿を見せることも大切です。人は能力だけを見ているわけではないのです。本人にとっても忙しすぎる業務をこなさず、メールでのやり取りは正しいことだと思うかもしれませんが「スマイル」メール送信だけでなく電話連絡できているんだと一言添えるだけでも、相手は速やかに対応したくなるでしょう。確認が必要な案件に関してはメールに合わせ電話で概要を伝える丁寧な対応が、信頼を築く第一歩ではないでしょうか。一度、自分の業務要領を振り返ってみてはいかがでしょうか。